

# 年頭所感

一般社団法人組込みシステム技術協会

会長 竹内 嘉一



あけましておめでとうございます。

旧年中は、当協会活動に格別なるご支援を賜り、心より感謝いたします。

本年も引き続きお力添えの程、よろしくお願ひ申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスのパンデミックによる緊急事態宣言が発令され、東京オリンピックも順延となり、ほぼ全ての業界で活動や移動の自粛、リモートワークの推進、渡航・来日制限が行われた結果、一時はリーマンショック以来の景気に落ち込みました。

加えて政治面においても、日本では安倍内閣から菅内閣に代わり、米国も大統領選を経て、トランプからバイデンに大統領が代わろうとしています。

また、世界で相次ぎ新型コロナウイルスのワクチン製造の成功と認可への期待も相まって、経済指標である株価は順調に回復を続けていますが、2021年については、米国バイデン新政権発足後の動向や、今後の新型コロナウイルスの状況によって、どのように経済が動いていくのか予断を許さない状況が続くとみています。

今年を干支で見てみると、今年の干支は「辛丑(かのとうし)」です。解釈に諸説ありますが、「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」という意味があり、「丑」は「種から芽が出ようとする状態」という意味があるようで、「新しくなろうと、芽を出そうとしている状態の年」となり、次の成長に向けた準備の年であり、「転換の年」となるのだと解

釈しています。

まさしく今年はニューノーマル(新常態)時代を迎え、各産業界でSociety 5.0実現に向けてのDX推進と、持続可能な開発目標であるSDGsに向けた取り組みが更に加速する年となります。

我々JASAの活動も「転換の年」を迎えており、今年の重点活動項目は、昨年の6項目に加えて、ニューノーマルへの取り組みを追加して進めて参ります。

＜組込み業界の協会から、IoT、AI、5Gなどの使われる産業の協会に変革する＞

- ①グローバルも含め、他協会、地方との積極的なアライアンスの構築
- ②次世代展示会の確立(運営と収益化)、業界トレンドの発信、カンファレンス等での啓蒙活動を強化・発展
- ③高度人財育成の強化に加え、研修、人財育成の事業化
- ④技術本部で幅広い需要に応えられる体制強化と、成果物の共有化
- ⑤会社単独で実施しにくい、技術研究、仲間づくりを軸とした支援
- ⑥地方、グローバルに目を向けた人脈形成、人財育成の強化
- ⑦ニューノーマルに最適化したJASA運営の体質改善

JASAにとっての急務は、ニューノーマルへの対応とET事業収益のみに頼らない収益構造の再構築であり、下記の観点で皆様からのお知恵とご助力をいただきながら、新たな体制づくりから変革を進める所存です。

A)複数事業での収益構造の再構築

- ・ET & IoT展等のET事業の見直しと再構築(ハイブリッド開催)
- ・イノベーションチャレンジ、ETロボコンのオンライン開催による事業再構築
- ・ETEC 試験事業を「教育から試験まで」のワンストップ事業へ
- ・有料専門教育の事業化(技術本部等のJASA資産の利活用)
- ・組込みシステムのセキュリティ関連のコンサルティング及び認定関連事業
- B)経済産業省と情報連携し、委託事業、補助金事業の獲得による業界の活性化
- C)会員とのコミュニケーションの活性化(Web会議・ツール、Webinarの活用)
- ・組込み応用技術の普及・啓発
- ・支部会議・支部主催イベントの開催(オンライン開催を主軸に)
- ・協業マッチング(会員企業に実益が伴う仕組みづくり)
- ・国内外視察・情報収集(オンラインで出来ること)
- ・業界研究セミナー(組込み業界企業への人材不足対応)

結びとなりますが、新型コロナウイルスの脅威は未だ終息へは向かっておりません。

皆様におかれましては社業を始め様々な活動に制約を受ける中、今年も一年、健康最優先にご留意いただきご自愛くださることをお願いし、新年の挨拶とさせていただきます。